



河南中医学院と 契約書を交わしました



去る2010年6月28日に国際交流処より招待され、辰巳洋学院長が河南中医学院を訪問しました。中医学の発祥地にある河南中医学院は堅実的な教育を行い、優秀な人材を送り出しています。多くの卒業生は全国の各中医薬の分野で責任者として大活躍し、さまざまな業績を上げています。長年にわたり学術会議の場で河南中医学院の教授らと交流を重ねてきました。河南中医学院副院長である郭徳欣教授が大学を紹介し、辰巳洋学院長は本草薬膳学院の沿革と現状について述べました。今後の両校の交流について意見を交わし、教育・研究・留学生などの提携内容について正式に契約書をしました。午後には国際交流処の孫可興処長が司会をつとめた会議で、辰巳洋学院長が『日本中医薬膳学の現状—本草薬膳学院の教育を中心として』について日本での中医薬の流派、歴史、本校の教育実例を紹介し、参加した大学の国際交流処、基礎医学院、薬学院の講師の方々、学生の皆さんと更に理解を深めました。また今回、辰巳洋学院長は河南中医学院より兼職教授の招聘状を授与されました。今後、両校が協力し合い、薬膳や中医学の普及・発展することを期待しております。

2010年度「国際中醫師」資格認定試験が行われました

去る7月3～4日、本草薬膳学院において、世界中医薬学会連合会（北京）主催の2010年度「国際中醫師」資格認定試験が行われました。北京から世界中医薬学会連合会資格考試部の付天昊先生と李衛東先生のお二人の先生が試験官として来日し、緊張と厳粛な雰囲気の中2日間の試験が終了しました。今年は7名の方が受験し、国際薬膳師資格を取得後も学習を続け、国際中醫師コース、特別セミナーで約1年半の歳月をかけて受験に臨みました。2日間の試験が終了し、受験生の皆さんはひと安心されていました。



『国際中醫師の試験を受けて』

国際中醫師コース 猪俣 朝子

「薬膳」を学び始めて二十年近くになりますが、中医学は学んでもなかなか卒業できない広い学問だと感じています。中醫師の勉強をしたら少しは解ってくるかも知れないと思いい、昨年四月に国際中醫師のコースに参加しました。

今回の中醫師の試験には、しっかり準備をして本番には慌ることもなく受験したいと思っていました。と言うのは、国際薬膳師の試験の時には、娘が二人目の妊娠でひどいつわりで一日おきに点滴に通い、上の孫を見たり、予定より一ヶ月も早く生まれ、退院をした日から毎日夜泣きで勉強どころではありませんでしたので、一週間の付け焼刃にな

ってしまいました。実際、講義が始まってみると一ヶ月はあつという間で、心構えとは逆に何も出来ずに次の講習日となってしまい、気持ちだけは「やらなければ！」と思いつつ、年の瀬を迎えてしまいました。正月からは頑張ろうとした矢先、十二月二十八日朝、主人がくも膜下出血で倒れ、救急車で病院へ。手当ての甲斐も無くその日に亡くなってしまいました。暮れに葬儀を済ませ、年を越しました。四十九日を迎えた時、今度は主人の母が二月十九日に急に亡くなってしまったのです。主人と母の納骨をしたのが、桜のきれいな四月初めでした。勉強どころではなく、ほんとと私には試験を平和に受けられない巡り合わせだと思います。そんなこんなで、最後の特別講習日となりテストまであと二週間に迫り、やる気スイッチが入りました。試験前日、最後の仕上げと思った時、本草薬膳学院より、やってない臨床の症例にも目を通すようにと連絡があり、大パニック。この日と翌日の二日間はこの間に必死で勉強したことは、私の人生で初めてという位頑張りました。毎月の講習のとき、クラスメイトの皆さんはノートにまとめて準備をして頑張っているのを見たり、また落ち着いて勉強が出来なかった私が、一人落ちてしまったら大変と思うと、プレッシャーになりました。テストの終わった日、共に大変な経験をしたクラスメイトと深い絆が生まれ、大切な友達が出来たことは何にもまして嬉しいことです。何とか無事に終えて、思い返したら私はやっぱり、中医学の更に広い入口に立っていました。中医学の勉強はとても面白く、楽しい。けれど試験はつらい。それに体当たりして乗り越えて、視野が少し広がり、これからの勉強は更に楽しくなりそうです。

ここまでご指導くださった劉先生、陶先生には大変お世話になりましたこと、深く感謝致しております。有難うございました。お礼と共にこれからもご指導よろしく願います。中国四千年の知恵は習得するのに時間がかかりそうです。

秋期生募集!!

中医薬膳師コース 土日コース 第3土・日曜日 10:00～16:00

10月16日(土) 開講予定

